

1名分料金で
2人目無料

よくあるQ&Aからみた

洗浄バリデーションの実務とDHT・CHT設定/評価法【LIVE配信】 【アーカイブ配信】

◆日時：2026年8月25日(火) 10:30～16:30

【アーカイブ配信：8/26～9/4(何度でも受講可能)】

◆会場：【WEB限定セミナー】※ご自宅や職場でご受講下さい。

◆受講料：1名につき55,000円(税込、資料付)

※会員登録(無料)をしていただいた方には下記の割引・特典を適用します。

- ・1名でお申込みされた場合、1名につき**49,500円**
- ・2名同時にお申し込みされた場合、**2人目は無料(2名で55,000円)**
- ・ライブ配信視聴、アーカイブ配信視聴いずれも受講料は同じです。

セミナーHP <https://www.rdsc.co.jp/seminar/260826>

セミナーお申込みFAX

03-5857-4812

※お申込み確認後は弊社よりご連絡いたします。

【講師】※講師のご略歴等の詳細は弊社HPでご確認下さい

NPO-QAセンター理事兼事務局長、エイドファーマ代表 薬学博士 高平 正行 氏【元塩野義製薬(株)品質保証部】

cGMPに「医薬品の製造装置は、製品の安全性、本質、力価、品質または純度を劣化させるような汚染を防止するため、適切に洗浄されなければならない。」とある。またICH Q7 12章には、「共用設備の品目切り替え時には完全に洗浄すること、専用設備であっても望ましくない物質や微生物汚染を防ぐため、適切なインターバルで洗浄するべきこと。」とあり、洗浄バリデーションの最も基本的な考え方が示されている。本セミナーでは初めに洗浄バリデーションの基本を説明した上で、交叉汚染防止のためQRMに基づくリスク分析の実践的アプローチを軸としたDHT・CHT・WCLの具体的な設定方法と評価の考え方、洗浄バリデーションと毒性学的評価に基づく残留許容基準値設定の考え方、更には高生理活性製造施設の封じ込め技術や漏洩防止対策について事例をよくあるQ&Aも交え考察する。更に、毒性不明の新規化合物に対するアプローチや、試験室、実験室での封じ込め対策、封じ込めのための設備面での対応についてもGMPのハード要件と事例により解説する。また近年のニトロソアミン類問題も踏まえた洗浄バリデーションも考察する。洗浄バリデーションと封じ込め相互の適切な実施により、医薬品及びGMP管理を必要とする食品等への交叉汚染防止がより確固たるものになることを期待する。

1. 洗浄バリデーションによる交叉汚染の防止について

1.1 海外の洗浄バリデーションに関する法規制

1.2 PIC/S GMP Annex 15の改定に対応した洗浄バリデーション

Q1:製造設備を共用するためには、

どのような点に留意する必要があるか？

Q2:PIC/S GMPでは洗浄バリデーションに

ついてどのような観点で査察を行うのか？

1.3 cGMPにおける洗浄バリデーション

1.4 ICH Q7(原薬GMPガイドライン)における洗浄バリデーション

1.5 改正GMP省令(H25年8月30日)における洗浄バリデーション

1.6 改正GMP省令(R3年8月1日施行)

第8、9条「交叉汚染防止規定」新設とその背景

2. 洗浄バリデーションと残留許容基準値設定の考え方

2.1 洗浄工程のリスク管理と交叉汚染のリスクアセスメント

Q3:洗浄物、洗浄箇所別にみる

残留許容基準の設定に際して留意すべきことは？

2.2 毒性学的評価に基づく残留許容値の設定方法

・0.1%基準、10ppm基準、目視限度基準

・PDE(一日暴露許容量)の算出

・EMA暴露限界値設定に関するガイドラインとリスクアセスメント

・NOAEL,NOEL, PDE(一日暴露許容値)からの閾値設定

・TTC(毒性学的閾値)及びOEL(職業暴露限界)

・原薬製造、製剤包装工程における残留許容限度の算出方法

・洗浄剤の残留許容基準回収率の設定方法

2.3 手洗浄のバリデーション、

洗浄バリデーションで基準外だった場合の対応

Q4:洗浄バリデーションは3回の繰返しが必要か？

2.4 情報量の少ない治験薬や

毒性不明の新規化合物に対するアプローチ

2.5 閾値設定が出来ない場合の留意点

2.6 改正GMP省令案に提示された「設備共用の禁止」への考察

2.7 バイオ医薬品の洗浄バリデーション

2.8 ニトロソアミン類問題を踏まえた封じ込めと洗浄バリデーション

3. ダーティーホールドタイム(DHT)・クリーンホールドタイム(CHT)の

設定とワーストケースロケーション(WCL)の評価方法

3.1 DHT, CHT, WCLの設定と評価

Q5:ダーティーホールドタイム(DHT)・クリーンホールドタイム(CHT)

の設定の根拠をどう構築するか？

3.2 バイオフィルムや非接薬部分の洗浄対応

4. 洗浄バリデーションにおけるサンプリング及び分析法の実施/ノウハウ

4.1 スワブ法、リンス法と他の方法(PHなど)の併用

Q6:サンプリング方法の選定基準とは？

Q7:スワブ法の場合、

どの箇所をどの程度(面積)サンプリングすればよいか？

Q8:洗浄しにくい箇所(配管内など)のサンプリングはどうすべきか？

4.2 サンプリング法の妥当性とバリデーション

4.3 分析法バリデーション及び回収率の評価方法

Q9:採取したサンプルの分析法はどのように設定すべきか？

5. 3極による査察指摘事例と押さえるべきポイント

6. 洗浄バリデーションに関わる手順書(SOP)及び報告書作成上の留意点

Q10:洗浄作業手順書を作成する上での留意事項とは？

7. 医薬品ライフサイクルにおける洗浄手順の構築

・ワーストケースアプローチとグルーピング

Q11:洗浄方法を確立する上での留意事項とは？

8. βラクタム系抗生物質など高生理活性物質やステロイド等

製造施設の暴露対策・封じ込め技術及びGMPハード要件

8.1 原薬GMPガイドライン、PIC/S GMPにおける交叉汚染の防止

8.2 改正GMP省令における交叉汚染防止の新規制

8.3 高生理活性物質製造施設の暴露対策、

そして封じ込めとGMPハード要件

8.4 封じ込め設備の設計検討、及び封じ込め性能の検証

8.5 交叉汚染防止と封じ込め設備(2022年版GMP事例集)について

8.6 試験室、実験室、新設ラボ設備での封じ込め対策と対応

9. 高度な封じ込め設備を必要とする高生理活性医薬品の

洗浄バリデーションと設備共用・専用化に関する判断基準

10. まとめ(一部、内容に変更がある場合がある)【質疑応答】

本セミナーは「Zoom」を使ったWEB配信セミナーとなります。Zoomを使ったWEB配信セミナー受講の手順

1)Zoomを使用されたことがない方は、こちら(https://zoom.us/download#client_4meeting)からミーティング用Zoomクライアントをダウンロードしてください。ブラウザ版でも受講可能です。

2)セミナー前日までに必ず動作確認をお願いします。はじめかたについてはこちら(<https://www.rdsc.co.jp/files/instruction/zoom.pdf>)をご覧ください。

3)開催日直前にWEBセミナーへの招待メールをお送りいたします。セミナー開始10分前までにメールに記載されている視聴用URLよりご参加ください。

・セミナー資料は開催前日までに送りいたします。無断転載、二次利用や講義の録音、録画などの行為を固く禁じます。

『洗浄バリデーション【WEBセミナー】』セミナー申込書 <■LIVE ■アーカイブ> ※いずれかにチェックしてください

会社・大学			
住所	〒		
電話番号		FAX	

●Webセミナーの受講申し込みについて●

必要事項をご明記の上、FAXでお申込み下さい。上記のLIVEかアーカイブにチェックを入れて下さい。弊社から受付完了のご連絡をいたしまして請求書をお送りいたします。セミナーお申込み後、ご都合により出席できない場合は代理の方がご出席下さい。代理の方も見つからない場合、営業日(土日祝日を除く)で8日前まででしたらキャンセルをお受けします。

受講料の支払いに関してはHPをご覧ください。

⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/entry>

個人情報保護方針の詳細はHPをご覧ください。

⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/privacy>

お名前	所属	E-Mail
①		
②		

会員登録(無料) ※案内方法を選択してください。複数選択可。

Eメール 郵送



株式会社R & D支援センター

〒135-0016 東京都江東区東陽3-23-24 VORT東陽町ビル 7F

TEL) 03-5857-4811 FAX) 03-5857-4812 URL) <http://www.rdsc.co.jp/>